

- **情報通信研究機構、災害時安否確認システム(IAA)の国際実証実験を実施**
 - **平成17年1月12日**
-

独立行政法人情報通信研究機構(以下NICT。理事長:長尾 真)は、大規模災害時の安否確認システム(IAAシステム)の研究開発を行ってきました。この度NICTは、海外を含む大規模な災害に対しても、より迅速に対応できるようにIAA Alliance(補足資料参照)と連携し、米国とフランスに新たなIAAシステムを設置し、日米欧を結んだIAAシステムの国際実証実験を行います。

記

IAAシステムは、1995年の阪神淡路大震災を契機として研究が始まった被災者の安否確認をするシステムです。IAAシステムはこれまでにいくつかの動作実績を積み重ねてきており、最近では平成16年10月末の新潟県中越地震の際に、新潟県が安否確認のシステムとして活用しました。

NICTは、IAA Alliance(補足資料参照)と連携し、米国コロラド州ルイスビル市とフランスツールーズ市にIAAシステムを設置し、日米欧を結んだIAAシステムの国際実証実験を行います。新たに海外にも設置したIAAシステムは、WWIAAシステム(World Wide IAAシステム)と呼び、その構成は補足資料のようになります。このことにより、2箇所のIAAシステムが稼働不能になってもIAAシステムは運用を継続することができます。また、IAAシステムの国際的展開を図ることにより、海外を含む大規模な災害にも迅速に対応できることが期待されます。

IAAシステムは、短時間に不特定多数のユーザーからアクセスされることが予想されます。このような状況でもシステムが正常に稼働することを確認するためには、実際に不特定多数のユーザーがアクセスする状況を作り出すことが必要です。この目的のためにNICTとIAA Allianceは、IAAシステムの国際実証実験を実施することにしました。国際実証実験は関係機関の協力を得て、日本時間の1月17日午前5時から一週間の予定で実施します。インターネットに接続されたパソコン及び携帯電話のインターネット接続機能を使って、IAAシステムにアクセスし、安否情報の登録と検索を体験して頂く事ができますので、一般の方の実証実験への積極的な参加をお願いします。国際実証実験の詳細につきましては、NICT、情報通信部門、セキュアネットワークグループのWebサイト(<http://www2.nict.go.jp/jt/a122/index.html>)をご覧ください。

更に1月18日から22日まで神戸国際展示場で開催される、国連防災世界会議と同時開催される第9回震災対策技術展(Webサイト<http://www.exhibitiontech.com/etec/>)のIAA Allianceのブースでもこの国際実証実験のデモ及び展示を行う予定です。

NICTは今後もIAA Allianceと協力してIAAシステムの国際的普及を推進し、在日外国人とその家族・知人間、並びに海外にいる邦人とその家族・知人間の安否情報確認に貢献します。また、IAAシステムを更に多くの国が活用できるように、国際的な利用環境を整備すると共に、将来的には安否確認システムの国際標準化を目指します。

<問い合わせ先>

情報通信研究機構 総務部 広報室
栗原 則幸

Tel: 042-327-6923、Fax: 042-327-7587

<担当部門問い合わせ先>

情報通信研究機構 情報通信部門
セキュアネットワークグループ

大野 浩之、海老名 毅

Tel: 042-327-5542、Fax: 042-327-7941

IAA Alliance (あいえいえい あらいあんず)。IAA システム(被災者情報登録検索システム。IAAはI Am Alive に由来)を普及発展させる為に、2002年8月に発足した産学官連携の組織。IAA Allianceは研究所や大学、企業、個人などの会員から構成されており、IAAシステムの運用管理、検証実験および普及の為に啓蒙活動などを行っている。今回の国際実証実験では、サン・マイクロシステムズ株式会社と日本ストレージテクノロジー株式会社の協力を得ている。NICTは、研究開発用に構築したIAAの実証システムをIAA Allianceに提供し、両機関が協力して実証実験などを行っている。

